

特別展

追われる生きものたち

— 神奈川県レッドデータ調査が語るもの —



7/20(土) (海の日) ~

9/23(月) (秋分の日)

休館日：毎週月曜日

ただし9/16(月)・23(月)は開館

開館時間／午前9時～午後4時30分

(入場は4時まで)

特別展示解説／毎週日曜日・祝日

午後1時30分～2時

特別展観覧料／20歳以上(学生を除く)

……………200円

20歳未満・学生……………100円

高校生以下・65歳以上……………無料

特別展のみの観覧もできます。

常設展の観覧には次の料金が必要です。

常設展観覧料／20歳以上(学生を除く)

……………500円(400円)

20歳未満・学生

……………300円(200円)

高校生以下・65歳以上……………無料

カッコ内は20名以上の団体料金です。

講演会「神奈川県の自然の危機を告げるレッドデータ生物」

日時／8/17(土)午後1時30分～3時30分

講師／浜口 哲一(平塚市博物館学芸員)

対象／一般 80名(抽選)

後援／日本自然保護協会・神奈川県自然保護協会・神奈川県植物誌調査会・日本野鳥の会神奈川支部・神奈川昆虫談話会



交通 箱根登山鉄道 入生田(いりうだ) 駅下車徒歩3分
所在地 小田原市入生田499 TEL0465-21-1515



神奈川県立 生命の星・地球博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

私たちが快適な生活を求め続けるにつれ、 たくさんの野生生物が姿を消していく…

私たち人類は、鋭い牙も、硬い甲羅もなく、たいして速くも走れず、力も弱い生きものです。そこで、頭脳をはたかせることによって自然の脅威に立ち向かい、生き残ってきました。寒いときには火を焚き、洪水を防ぐためには堤防を作り、速く遠くに行くには自動車に乗り…

人類は、こうして知恵を絞り、快適な生活を求め続けてきました。

そして、数百年前に比べて、現代の私たちの生活は飛躍的に快適になりました。たった30年前と比べても、驚くほど快適です。

ところがその一方で、私たちは野生の動物・植物にも大きな影響を与え続けてきました。昔は私たちの周りにふつうに見られた生きものたちが、ここ20～30年の間に珍しい種類になり、中には絶滅してしまったものも少なくありません。

野生生物に影響を与えるばかりでは

なく、これ以上の絶滅が続くと生態系のバランスが大きく崩れ、人類にとっても脅威となることが考えられます。

私たちが生き方を少し変えるだけで、野生生物を絶滅から救えるかもしれません。こんなときにも、人類は頭脳をはたかせて何かをできるはずです。

その第1歩としては、現代の人類がどのようにして野生の生きものたちを追いやってきたか、そして今もどのくらい迷惑をかけているのかを自覚することが必要です。

そこで当博物館では、神奈川県内からすでに絶滅したか、または絶滅のおそれのある動植物（維管束植物、脊椎動物、昆虫類）の実態を把握するために、平成4年度から6年度にかけて調査をおこないました。その結果、下の表にあるように、たくさんの生きものたちが、神奈川県内から姿を消そうとしていることがわかりました。

この特別展では、今回の調査で明らかになった絶滅種や絶滅危惧種の実態のほか、絶滅危惧種の調査の歴史や、絶滅から野生生物を守る試みなどについて紹介いたします。

表. 絶滅種等の概要

	維管束植物	脊椎動物	昆虫類
調査対象種	2,182	383	3,936
絶滅種※1	131	8	56
絶滅危惧種※2	195	62	163
減少種※3	147	91	118
合計	473	161	337
	21.7%	42.0%	8.6%

※1：現在県内で確認できなくなってしまった種

※2：県内での分布域が過去よりも狭まり、このままでは県内での生息・生育が危ぶまれる種

※3：県内での分布域が過去よりも狭まっているが、当面は県内での生息・生育が続くと判断される種